

詩人の嘆き

現代は、言葉に「手垢」がついてしまう時代である。

ある詩人が、そう嘆いています。

現代のマスメディアは、
商業主義的な言葉の濫用の中で、
味わいのある言葉、
香りのある言葉を、
「深い思い」を持つことなく使ってしまう。

そのため、それらの大切な言葉に
「手垢」をつけてしまう。

それが、詩人の嘆きです。

では、我々は、
大切な言葉が濫用されるこの時代に
どうすればよいのか。

その問いを抱くとき、
我々の心には、一つの考えが浮かびます。

大切な言葉に「手垢」がついてしまったならば、
「手垢」のついていない、新しい言葉を創造する。

しかし、その思いが心に浮かぶ一方で、
なぜか、全く逆の思いもまた、心に浮かんでくるのです。

大切な言葉に「手垢」がついてしまったならば、
さらに深い「思い」を込め、「願い」を込め、

その言葉を、使う。

なぜなら、

「言葉の生命力」

それを深く信じるとき、
言葉は、その輝きを取り戻すからです。